

● 市民意識調査結果の概要

【アンケート対象者】

- ・市内在住の18歳以上の市民
- ・回収数 1,433件/3,035件 (回収率 47.2%)

【回答者属性について】

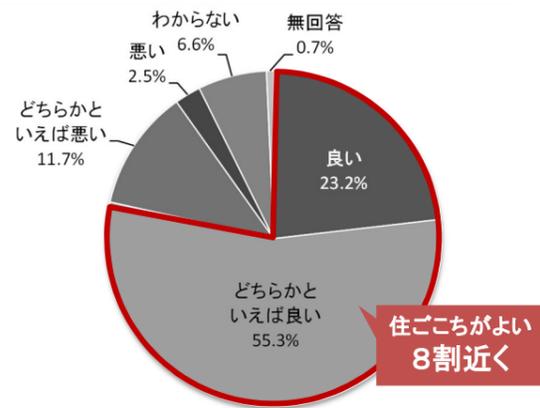
- ・回答者の半数近くは60歳以上で、性別は男性45%、女性53%と女性がやや多い
- ・居住地区は、能登川地区が2割、八日市地区、五箇荘地区、蒲生地区が1割

■住みごちや愛着等について

8割近くが住みごちがよいと考え、愛着を感じている人も7割近くみられるが、それに比べ東近江市を自慢できる人が少ないことから、多様な自然をはじめ、他に誇れるような魅力の再発見やPRの強化が必要と考えられる。

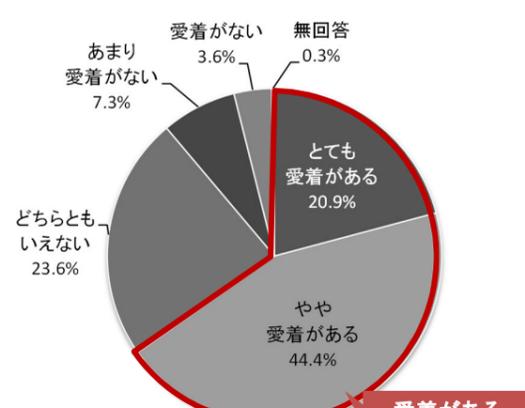
- ・8割近くの人が住みごちがよいと考えている。また、7割近くが愛着を感じている(年齢が上がるほど増加傾向)。
- ・4割近くが東近江市を自慢できると考えている一方で、「どちらともいえない」との回答も4割となっている。
- ・友人・知人に東近江市を紹介するところとしては、6割が「山や川、湖などの自然が楽しめるところ」をあげている。

Q: 東近江市の住みごち



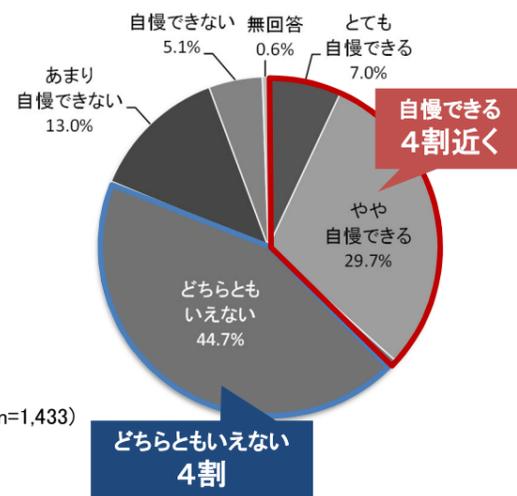
(n=1,433)

Q: 東近江市への愛着



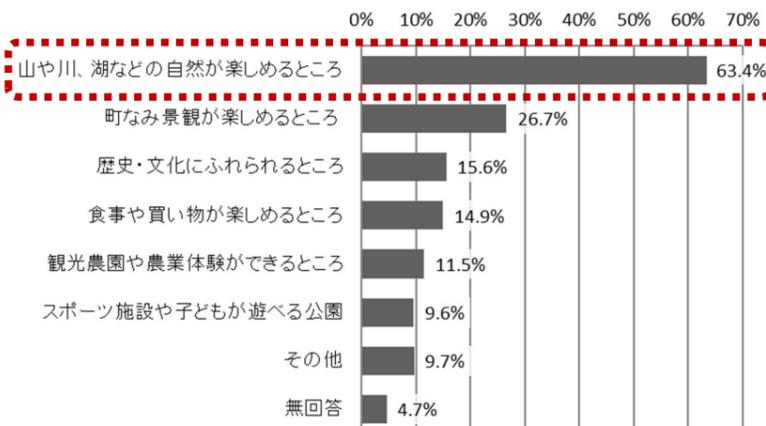
(n=1,433)

Q: 東近江市を自慢できるか



(n=1,433)

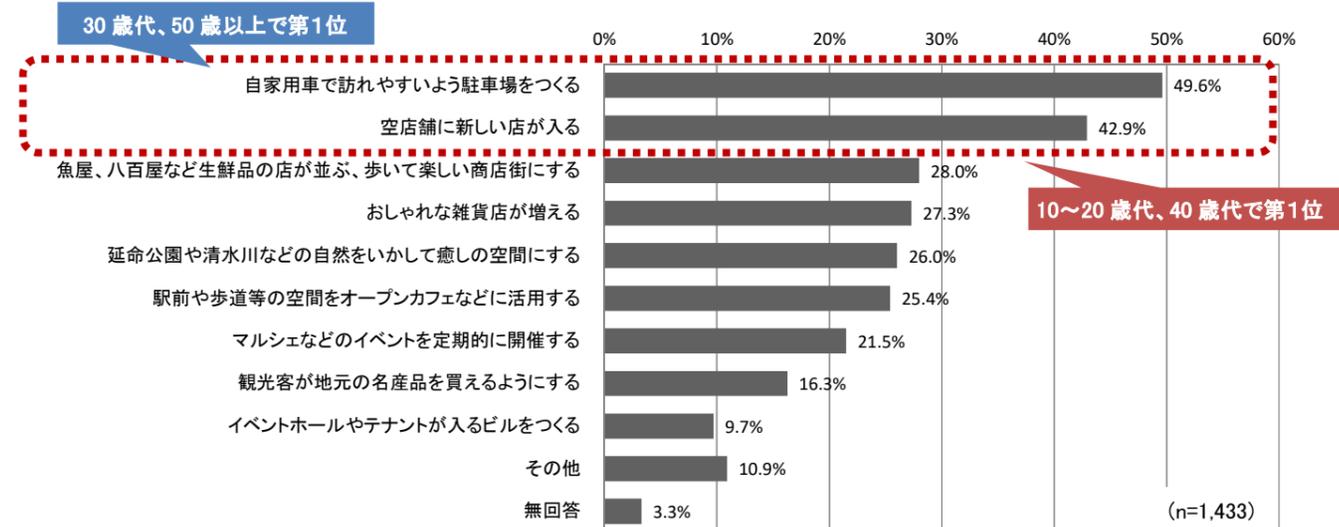
Q: 友人・知人に東近江市を紹介するところ(複数選択)



(n=1,433)

- ・中心市街地の活性化には、駐車場の整備や空店舗の解消をはじめ、魚屋、八百屋、おしゃれな雑貨店などの店舗が並び、歩いて楽しい商店街にすることが求められている。

Q: 中心市街地が活性化するために必要なこと(複数選択)

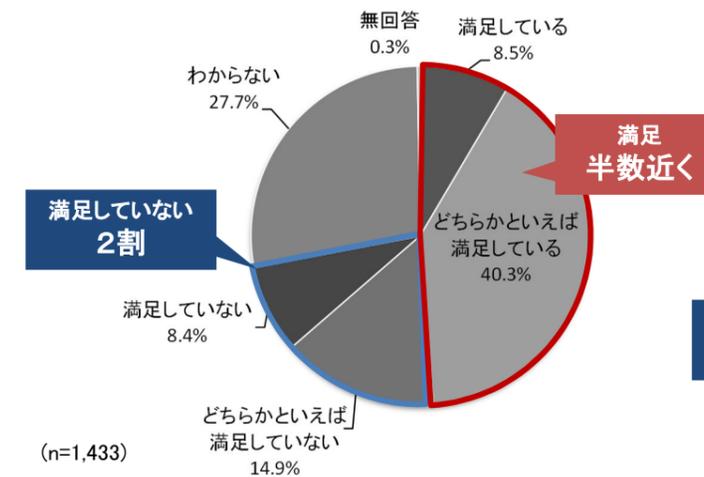


■健康や福祉について

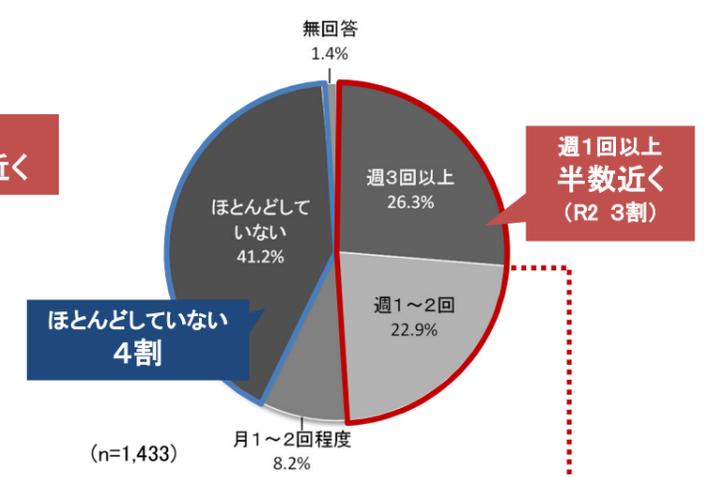
更なる医療体制の充実や健康長寿社会の実現に向けた運動習慣の定着促進(特に20~50歳代)が必要と考えられる。

- ・病院や救急時の医療体制については、半数近くが満足している一方で、2割は満足していない。
- ・スポーツやレクリエーション等の運動は、半数近くが週1回以上実施。一方で、4割がほとんどしていないと回答。全国と比べると、週1回以上の運動実施率はまだ低い。 ※設問内容の変更に伴い実施率は大幅向上

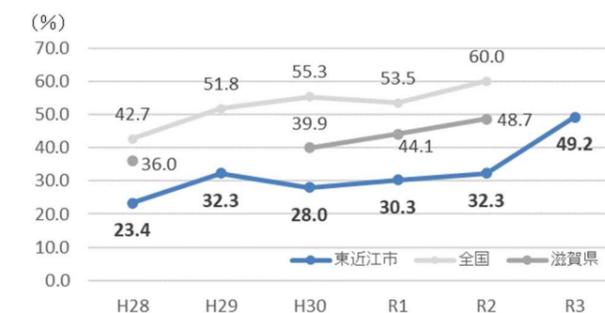
Q: 医療体制の満足度



Q: 運動の頻度



◆参考: 週1回以上の運動実施率の推移



資料: 遊賀県「遊賀県スポーツ実施状況調査」他、全国「スポーツの実施状況等に関する世論調査」他

◆年齢別運動の実施状況

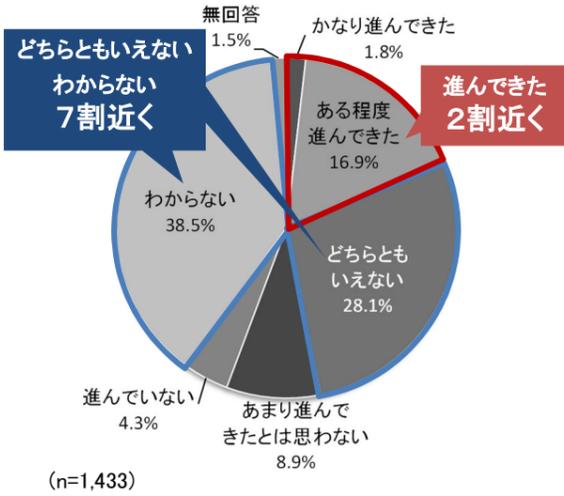


20~50歳代の運動実施率が低い

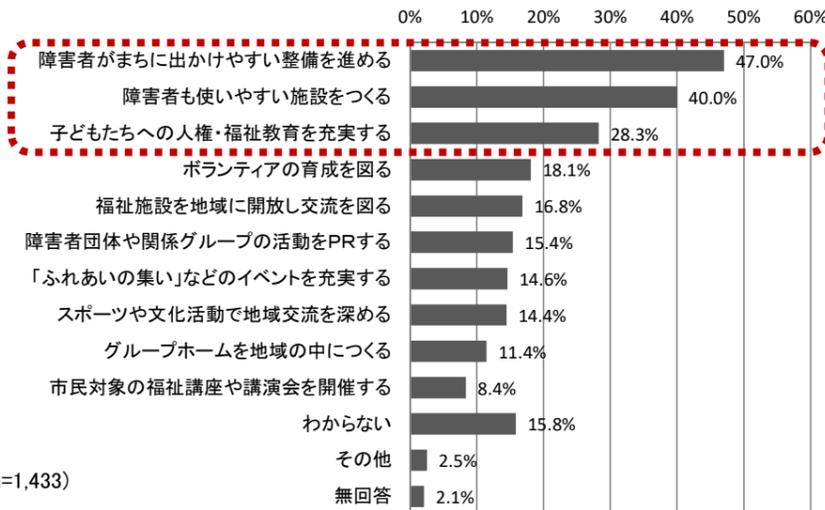
障害者に対する理解を深めるために、引き続き、バリアフリーのまちづくりや施設整備、子どもたちへの人権・福祉教育の充実が求められている。

- 障害者に対する理解が進んできたと思う人は2割近くで、7割近くが「どちらともいえない」又は「わからない」と回答
- 障害者に対する理解を深めるために特に力を入れるべき取組は、バリアフリーのまちづくりや子どもたちへの人権・福祉教育の充実と回答する人が多い。

Q: 東近江市民の障害者に対する理解



Q: 障害者への理解を深めるために特に力を入れるべき取組(複数選択)

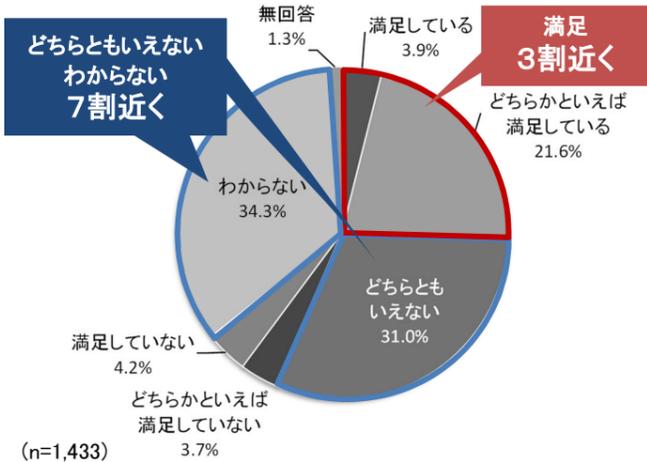


■環境や暮らしについて

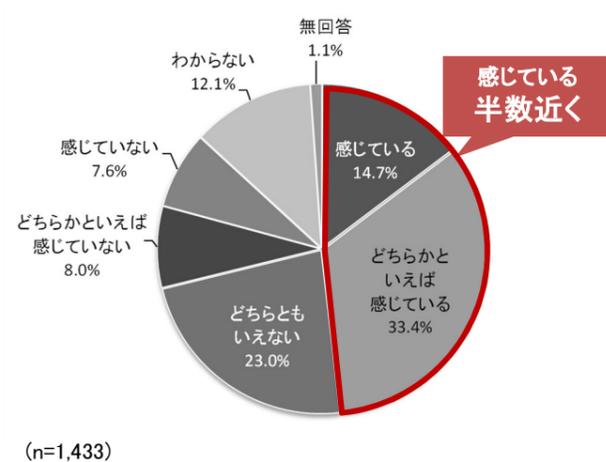
自然や環境への意識や行動実践率も高いことから、市民を巻き込んだ自然環境保全の取組の実践やその内容や効果のPR、多様な自然をいかしたPR戦略などの展開も必要と考えられる。

- 自然環境保全の取組には3割近くが満足しているが、7割近くが「どちらともいえない」又は「わからない」と回答
- 半数近くが、暮らしや仕事等日々の営みの中で自然環境との関わりを感じている。
- 環境にやさしい取組は9割近く、省エネ設備等は2割が設置(予定・希望も含めると6割)、ごみの分別はほとんどの人が実践

Q: 自然環境保全の取組への満足度

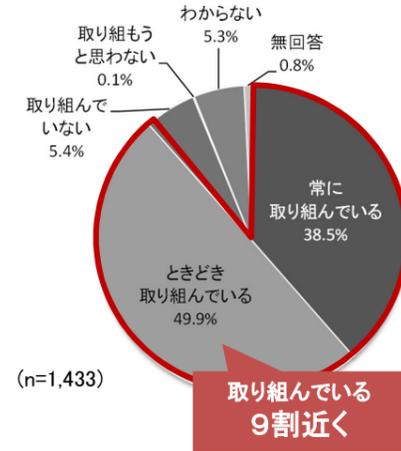


Q: 自然環境との関わり

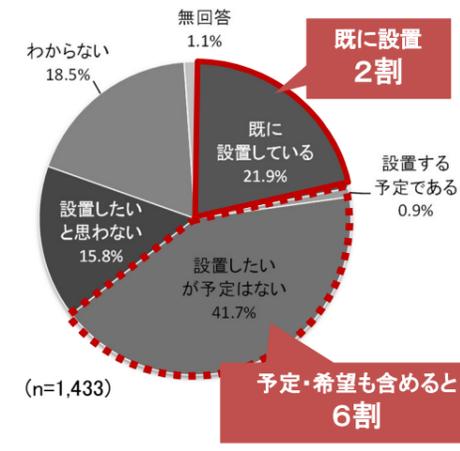


Q: 低炭素・資源循環型の取組

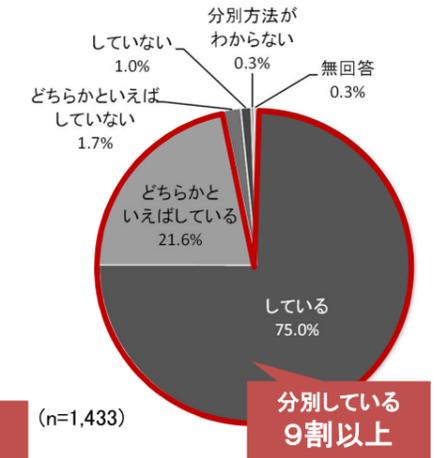
① 環境にやさしい取組



② 省エネ設備等の設置



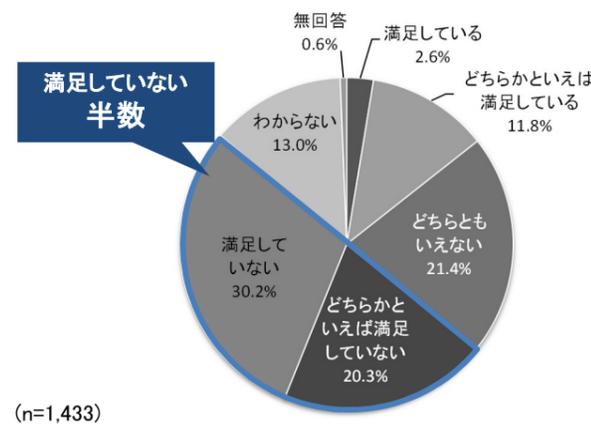
Q: ごみの分別



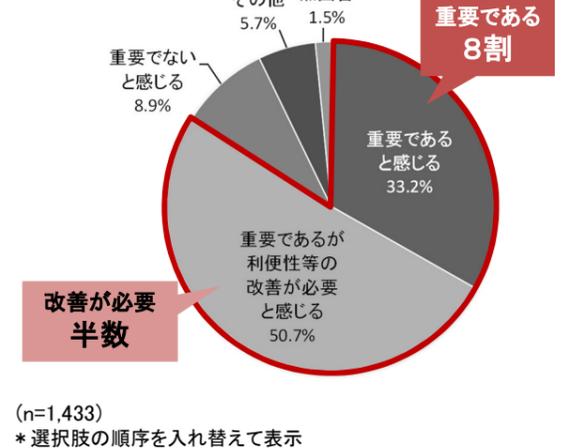
公共交通については依然半数が満足しておらず、利用は少ないが重要とされる近江鉄道線の改善をはじめ、公共交通等の利便性の向上が必要と考えられる。

- 市内の鉄道やバス等の公共交通については、半数が満足していない(特に20~50歳代で満足していない人が多い)。
- 近江鉄道については、9割が利用していないものの、8割が重要と考えている。一方で、半数が改善を望んでいる。
- 近江鉄道の主な利用目的は、「遊び・趣味」「通勤・通学」「仕事」(月1日以上の利用者)

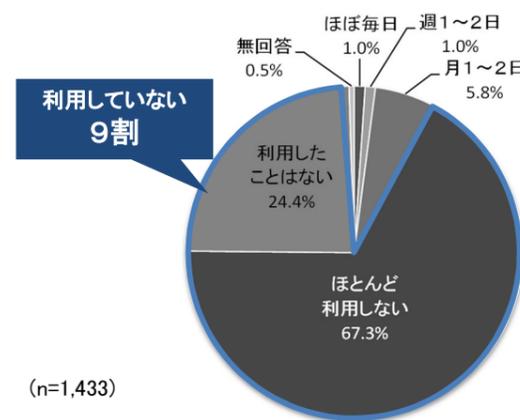
Q: 公共交通の満足度



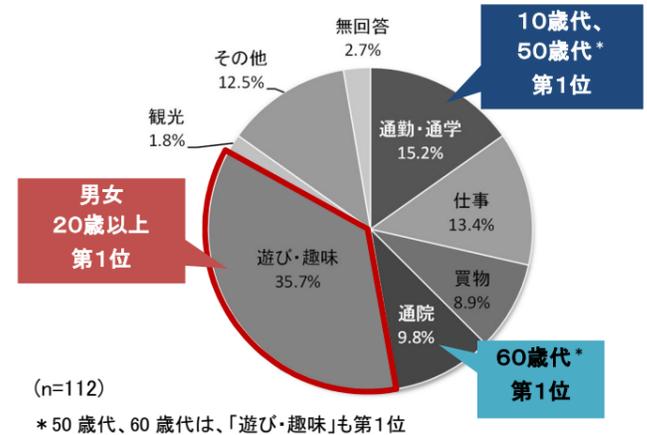
Q: 近江鉄道線について



Q: 近江鉄道線の利用頻度



Q: 近江鉄道線の利用目的(月1日以上の利用者)

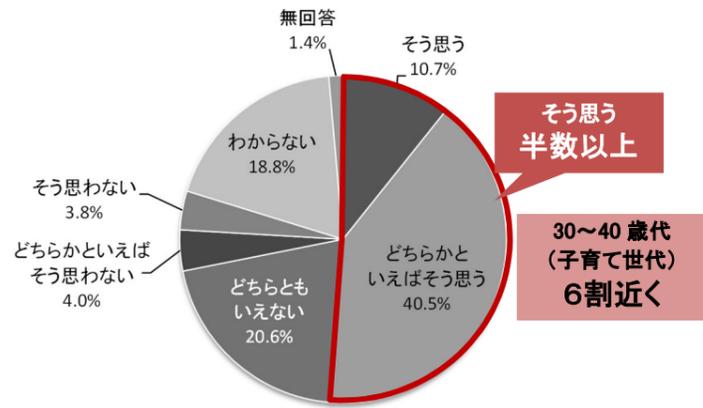


子育てや教育について

子育て環境は半数以上が良いと考えており、子育て環境の更なる充実と、それをいかした若い世代の移住・定住促進が必要である。また、人権が尊重されていると実感できる取組が必要と考えられる。

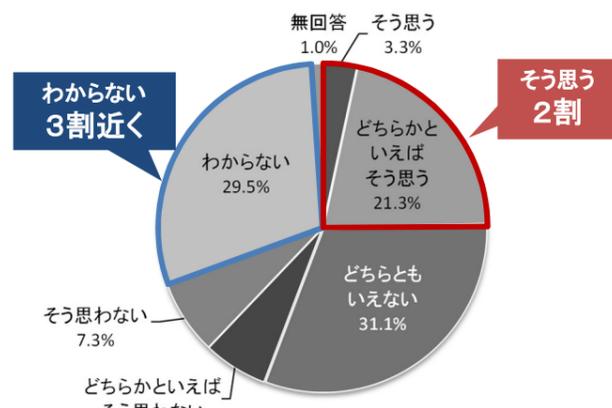
- 半数以上が、東近江市は子育てをするのに良い環境だと思っている（特に30～40歳代の子育て現役世代で高評価）。
- 人権が尊重されるまちになっていると思う人は2割で、3割近くが「わからない」と回答している。

Q: 東近江市は子育てをするのに良い環境か



(n=1,433)

Q: 東近江市は人権が尊重されるまちになっているか



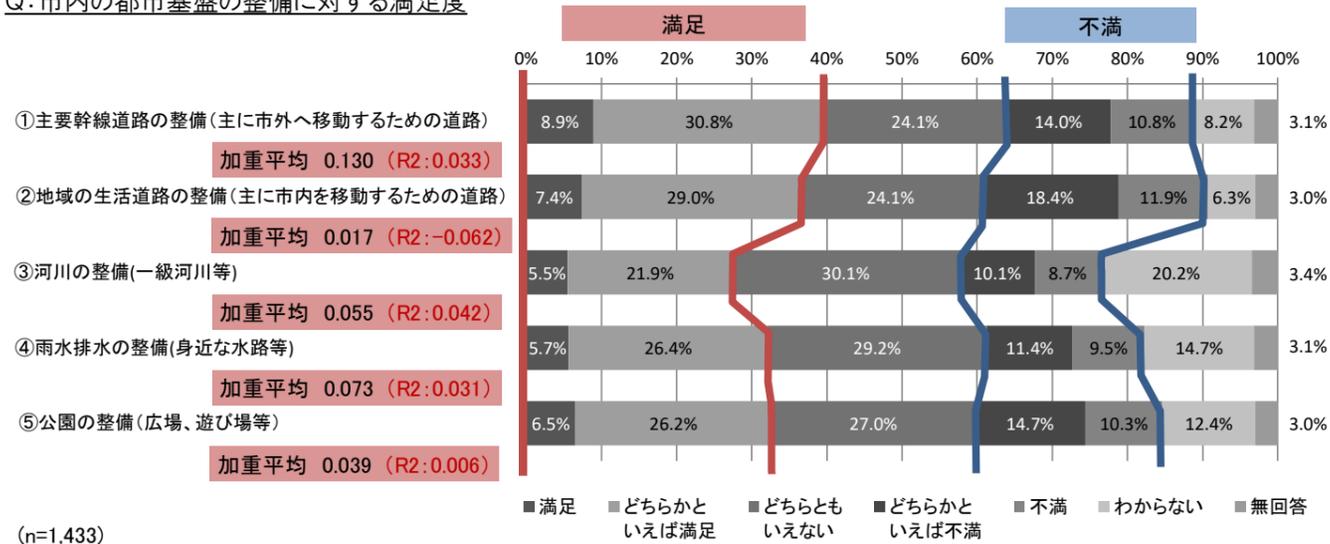
(n=1,433)

都市整備について

地域の生活道路をはじめ、公園や河川などの整備を引き続き推進する必要があると考えられる。

- 総合的な評価(加重平均*)の高い順は、①主要幹線道路の整備、④雨水排水の整備、③河川の整備、⑤公園の整備、②地域の生活道路の整備(R2よりも全体的に評価が向上、②地域の生活道路は初めてプラス評価に。いずれも若い世代で高評価)
- いずれも不満な人より満足の人の方が多く、道路(①と②)と公園(⑤)は不満な人も多くみられる。

Q: 市内の都市基盤の整備に対する満足度



(n=1,433)

都市整備についての年代別評価

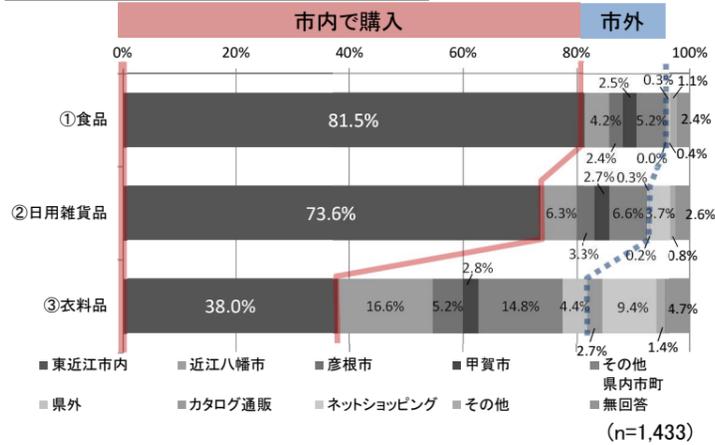
年代	①主要幹線道路	②地域の生活道路	③河川	④雨水排水	⑤公園
全体 (N=1,433)	0.130	0.017	0.055	0.073	0.039
10歳代 (n=29)	0.241	0.345	0.207	0.103	0.138
20歳代 (n=101)	0.396	0.218	0.356	0.426	0.218
30歳代 (n=167)	0.371	0.018	0.234	0.251	0.102
40歳代 (n=231)	0.087	-0.043	0.177	0.048	0.069
50歳代 (n=213)	-0.005	-0.150	-0.005	-0.047	-0.019
60歳代 (n=311)	0.023	-0.058	-0.106	-0.055	-0.113
70歳以上 (n=367)	0.139	0.136	-0.011	0.090	0.101

購買状況等について

食品や日用雑貨品は市内消費率が高いが、衣料品は4割が市外へ依存しており、消費の流出を抑える対策が必要と考えられる。

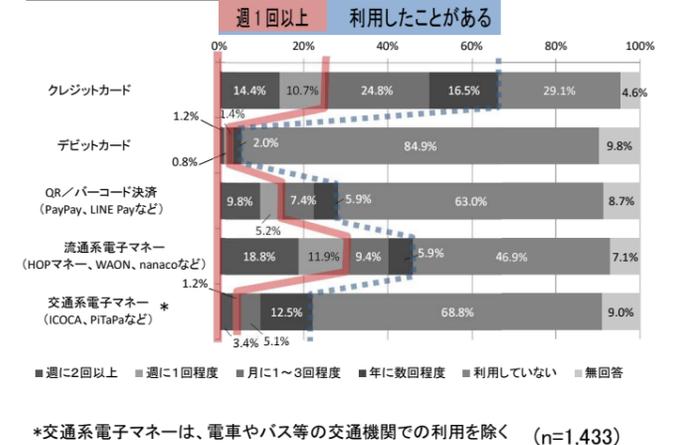
- 食品は8割、日用雑貨品は7割が市内で購入しているが、衣料品は若い世代を中心に4割が市外(近江八幡市、その他県内市町等)で購入している。
- クレジットカードや流通系電子マネーなどのキャッシュレス決済が利用されている(クレジットカードは特に30歳代、流通系電子マネーは40～50歳代で利用が多い)。

Q: 食品、日用雑貨品、衣料品の購入先



(n=1,433)

Q: キャッシュレス決済の利用状況

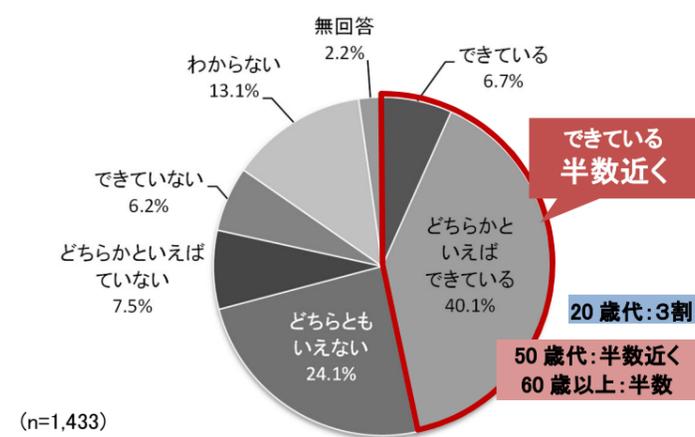


協働のまちづくりについて

地域での住民同士の助け合いは半数近くができていると感じているが、若い世代や外国人も含めた協働のまちづくりの機会や場の充実を図っていくことが必要と考えられる。

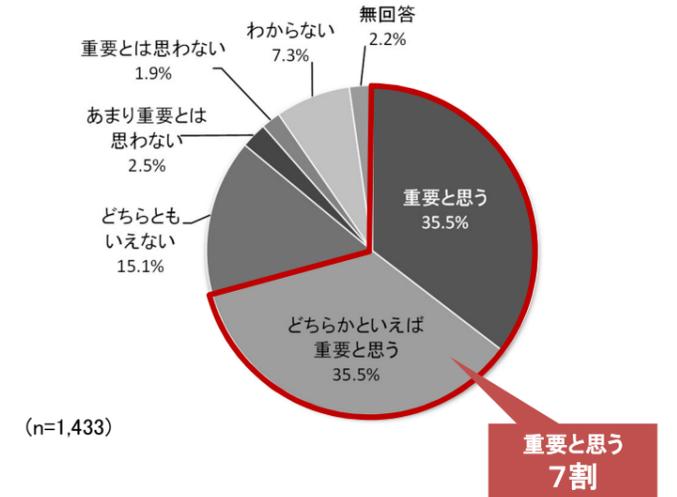
- 地域での住民同士の助け合いは、半数近くができていると回答している(50歳以上は半数前後と高い)。
- 国籍や民族の異なる人々が互いに認め合い、共に暮らす社会の実現は、7割が重要と考えており、若い世代ほど認識が高い。

Q: 住民同士の助け合い



(n=1,433)

Q: 国籍や民族の異なる人々が共に暮らす社会の実現



(n=1,433)

*加重平均

以下の加点表に基づいて加点した総合点(各選択肢の回答数×加点を合計した値)÷全回答者数(1,433件)値が大きいかほど満足度が高く、数値がマイナスだと不満が多く、その絶対値が大きいかほど不満度が高くなる。

満足	どちらかといえば満足	どちらともいえない/わからない	どちらかといえば不満	不満
2点	1点	0点	-1点	-2点